

群馬県下仁田地域における市場のニーズに合わせた 林業経営の可能性に対する一考察

吉野聡（東農大院）・佐藤孝吉（東農大）・箕輪光博（大日本山林会）

はじめに

立木価格の低迷から林業経営もコストパフォーマンスを考える必要が出てきた。コストパフォーマンスとは、作業に必要なコストとその作業を実行するためのパフォーマンスを比較することを意味する。ニーズを把握し、無駄な労力を省きコストを下げることによりコストパフォーマンスは高まる。育林技術を通して変化させることの出来る立木の因子としては、節や年輪幅などの材質がある。そこで本研究では、まず材質に関するニーズを把握し、ついで市場のニーズに合わせた林業経営の可能性について考察する。

ニーズ (needs) とは

マーケティングにおいて基本となる概念で、ウォンツ (wants) と同義のもとして使われることが多い。厳密な違いとして、ニーズというのは消費者に欠如しており、そのため消費者が欲しいと思う抽象的なものを、他方ウォンツはニーズを具体的な商品の形にしたものをさす。消費者のニーズを満たすように生産者はウォンツを提供することになる。

調査地概要

本研究の調査地は、群馬県西毛地域内の甘楽郡（甘楽町、下仁田町、南牧村）、安中市、藤岡市、富岡市である。本研究では便宜上これら4つの地域を合わせて下仁田地域と呼ぶことにする。群馬県には、素材市場が6つあるがそのうちの4つが下仁田地域にある。また、群馬県全体では169社の製材業者が存在し、その約半数にあたる86社が下仁田地域で操業している。

調査方法

群馬県下仁田地域におけるニーズを把握するために、下仁田地域における製材業者（86社）と原木市場（4社）にアンケートとインタビューを行った。

結果と考察

商品となる製材品や工場の規模など製材業の条件によってニーズが違うことが判明した。つまり、製材業者の多様性が地域のニーズの多様性につながると考えられる。また、材質において曲がりを最も重要視する製材業者が多い傾向がある。素材市場は曲がりや材の色を重要視する傾向がある。

多様なニーズは林業経営に様々な可能性を与え、経営に柔軟性を持たせることができるので必要である。多様な製材業者を残して多様なニーズを残すためにも林業経営も個人的な枠を超えて地域が共存可能な地域林業経営へと変化していく必要がある。

（連絡先：吉野聡 63070014@nodai.ac.jp）